

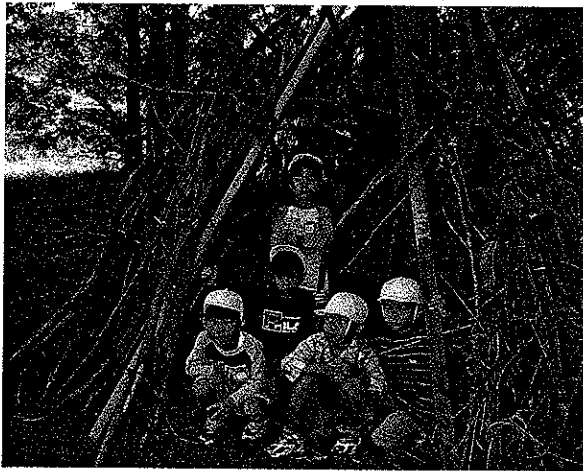
はじける こころ

vol. 10

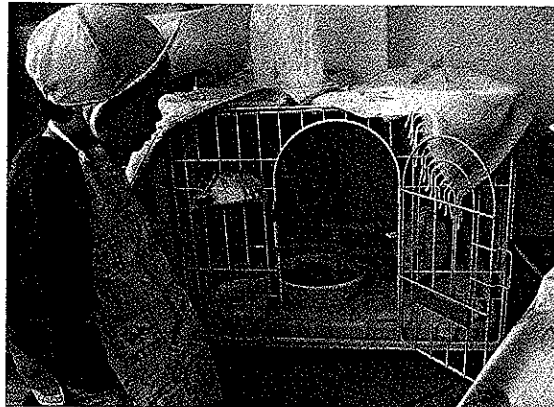
人権の宝島：とよかわみなみ幼稚園発.....1
 わくわくスタート「もうすぐ一年生」.....3
 中学生版：言うから聞いて！.....5
 第23回箕面市青少年弁論大会より
 つぶやきにこたえて：保護者編.....6
 人権教育基本方針解説.....7

げんげののぺえじ

●写真募集！●子どもたちの笑顔、真剣な顔、輝く顔...などの写真をお送りください。



げんげの：「げんげ(紫雪草)」とは、れんげ草のことで、「げんげの」は、れんげ草が一面に生い茂る野原のことです。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、春になると蓮の花に似た小花を一面に咲かせます。また、れんげ草は、緑肥として大地を肥やします。蓮に似た小さなれんげ草を、子ども一人ひとりの尊厳に見立てて、それが一面に花開く様子をイメージしました。



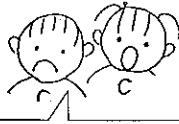
みのおから世界へ！ 人権文化の花束を！

なおしてくれて本当にありがとう しおりのり



うさぎの目の
病気が治る!

子どもたちのつづやき



はやくなおって、ぴよんちゃんとおそびたい！
「ぴよんちゃんいないの、さびしいな」
などと心配しましたが、元気に幼稚園に戻ってきたので、子どもたちは大喜び。「ぴよんちゃんよかったね！」

ぴよんちゃんのつづやき

私は、幼稚園にいるうさぎのぴよんちゃんです。
この間から目を悪くして、先生たちに病院に連れて行ってもらっています。目も大分治ってきました。早く元気になって、仲間とうさぎたちとまた一緒に暮らしたいです。幼稚園のみんなに「はやくよくなってね」って声を掛けてくれたのがとっても嬉しかったです。

保護者の声

感謝の気持ちを込めてクリスマスリースを作りました。お医者さんにお渡し下さい。



こうして、ツリーとメッセージカードはお医者さんのもとへ

職員の声

日々の生活の中で「何か？」ドラマが起こる幼稚園。その何かを教材として、保育していく大切さを感じますね。

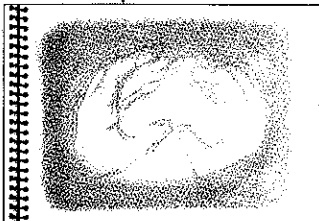
痛くてもしんどくても、しゃべることのできないうさぎだからこそ、幼稚園のみんなでお世話をすることができたのではないかなあ。
ぴよんちゃんを通して、「命の尊さ」「思いやりの気持を持つ」ことを言葉ではなく、実体験を通して学んだのではないかなあ。

手作り絵本

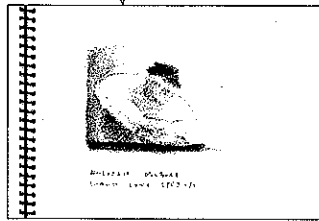
「うさぎのぴよんちゃん」ができる!!

そして、子ども達のつづやきは……

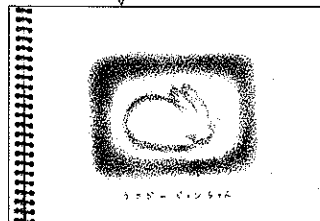
おいしゃさんがなおしているところやわ……



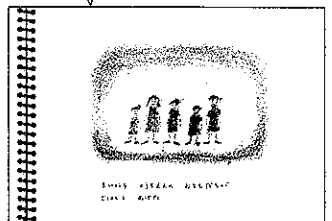
やさしいおいしゃさんやね



なおったら、おせわしたい



ぴよんちゃんなおってよかったね



とよかわみなみ幼稚園では、子どもたちが自然に親しめるよう環境づくりに努めています。ビオトープ、親子栽培の畑、虫にふれられる草むらなど、自然との出会いがいっぱいです。草花で遊んだり、青虫を育てたり、野菜の収穫などの体験をし驚きや感動する心を持ってほしいと願っています。子どもたち自身が生き物や野菜などの世話をし、自然とふれあう中で、友だちの考えを知ったり、発見を共有したり、多くの違いを知ったりしています。それらを通して、命の尊さやぬくもり、いたわりあう気持ち、人との違いを認め合う気持ちなど、生きる力の基礎が育まれることを願っています。

風はいつか はる風のように
みんなが笑える あたたくかく
とよかわみなみ幼稚園

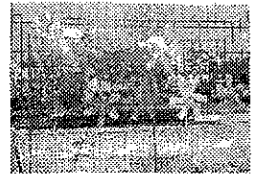
春風のように
さわやかに

うさぎちゃんのおめめを



箕面市立とよかわみなみ幼稚園

小野原に創立されて10年。風をイメージされて造られたこの街にちなんで、園庭にそびえる大きなかざぐるまのモニュメント、玄関扉のかざぐるまの窓など、かざぐるまが幼稚園のシンボルとなっています。



～うさぎを通して命の尊さを見つめる子ども達～

幼稚園では、生き物の世話を当番活動でしています。小鳥やザリガニ、亀などの水かえや、うさぎ小屋の掃除や餌やりをします。うさぎ当番は3学期に年少組が年長組から当番活動を引き継ぎます。エプロンをし、長靴をはいて小さいほうきを持って小屋の中に入り掃除をします。



「ももちゃんおはよう！」
園庭の草を上げている。



年長組の真似をして、ザリガニの水をかえているところ。



そのような生活の中で、ある日こんな出来事がおこりました。

うさぎ小屋の掃除をしていると、うさぎのぴょんちゃんの目の調子が悪いのに気づきました。目の周りがただれていて大変痛そうなので、子どもたちは心配します。



白菜を包丁でトントン、うさぎさんの朝ご飯作り！



「ぴょんちゃん大丈夫？」



「うん、目の調子が悪いの」
(夕方動物病院へ連れて行く)

7、8年位前より飼っている、うさぎ(ぴょんちゃん)の左目が病気になる回復(生命)も心配されました。子ども達は、日頃から親しんでいるうさぎの目が痛々しそうで心配していました。しかし、子ども達、お医者さん、保護者、職員みんなの願いが届き、現在は、うさぎの目の周りに産毛が生えてきて食欲もあり元気になりました。

お礼の気持ちを伝えたいと子どもがお医者さんに手紙を書いたり、家の人にうさぎの話をして一緒に回復を見つめる姿や、家から野菜を持ってきたり、子どもたちは様々な思いを持ってうさぎとかかわっています。去年の11月からの出来事で、今も当番の子どもたちは、毎日職員室の一隅にゲージで飼われているうさぎに餌を届けにきては、うさぎに話しかけたり、様子を見たりしています。

今回は、市内の公立幼稚園・小学校の教職員が連携し、平成17年度（2005年）小学校入学予定の子どもたち、保護者に対して、実施されたイベントを紹介します。

このイベントは、小学校における生活内容や学習環境を劇などにして、分かりやすく表現することにより、新1年生をスムーズにスタートできるようにという目的で実施されたものです。

8日 ところ：メイプルホール

1年生だね！」



わくわくさんあうの巻

小学校の授業と言えばナンバー1はなんといっても算数（本当かな）。いろいろなものを使って工夫してくと、授業が分かって楽しくなるよ。



うたって
おどって
いっしょに
あそぼ！

は舞台上がって一緒におどろうよ！〔♪世界



小学校は幼稚園や保育所と連携したりして子どもたちがわかるように工夫しています。そのことが確か

みんなで
食べる 給食っ
ておいしいね



わくわく図書館の巻

図書館で
調べてみようよ



中庭で見つけたトカゲ、つかまえたチョウチョ、「この白い花は何の花？」と言いながら図書館にやってきた子に司書が相談に乗ってくれます。「読みたいな」「手にとってみたいな」このタイトルおもしろそうだな」「宿題調べないと」等々、図書館は学校の情報センターです。

出演者の声

◇わくわくしながら当日をむかえた。子どもたちの反応がかわいく、自分自身も楽しめた。

◇会場の子どものがこちらからの問いかけにすぐに反応してくれてやりがいがあった。

◇幼稚園と小学校の職員が一緒になって、どうしたら子どもたちに喜んでもらえるか、話し合い、短時間で、ひとつのものができたことに満足した。

◇こんな機会があれば、次もぜひ参加・協力したい。保育所・幼稚園・小学校の職員が協力し、多くの子どもたち、保護者に見に来てもらえるような日程や時間帯にできたらよいと思った。

◇小学校がどんなところかなど、期待と希望と夢をもって来てくれる子どもたちを、大事にしたいなと思った。



実行委員で協力いただいた方（敬称略）

北上友子、川上加津子、南 園美、橋爪貴之、原田みさと、谷 和代、中間麻由美、山口 純、川本重樹、曾我正子、右田ユミ、高岡なつ子、寺内佐和子、安田真弓、結城美保里、藤本真樹

大阪府教育委員会小学校体験入学等推進事業



わくわくスタート

とき：平成16年12月

プログラム

【寸劇】しょうがっこうって どんなところ？

- ①わくわく！オープニングの巻
これから始まる寸劇の説明
- ②わくわく！集団登校の巻
安全に気を配りながら上級生と楽しく登校
- ③わくわく！さんすうの巻
楽器やいろいろなものを使って数の学習
- ④わくわく！運動場の巻
広い運動場でサッカーや縄跳びあそび
- ⑤わくわく！給食の巻
カレーや揚げパンも出る給食
- ⑥わくわく！図書館の巻
図書館は学校の情報センター
- ⑦わくわく！小学校の巻
市内の校長先生から学校紹介
- ⑧わくわく！教育委員会の巻
教育長が真面の教育を説明
- ⑨わくわく！フィナーレ
4月から1年生になるお友達と舞台上で踊る



「もうすぐ

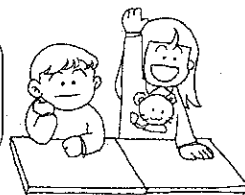
わくわくフィナーレの巻

フィナーレは再び全員集合のうたとおどり！会場のお友だちも中の子もたちが♪）サンタやトナカイもやってきているよ。【♪ヤッター サンタがやってくる♪】



もうすぐ小学1年生になるみなさん、保護者のみなさん、真面もたちがびっくりしないように、小学校のリズムにスムーズに慣れた学力の獲得につながります。

入学説明会で
真面市立小学校紹介パンフレット
を配付しています



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ☆全部おもしろかった。（子ども）
- ☆真剣な表情で見えていました。きっとすごい期待をしながら後数ヶ月を過ごすことでしょう。
- ☆小学校に行くにあたって、不安なことがいろいろありましたが、子どもは、今日のイベントで、学校が楽しいところと思えたようです。
- ☆不安や夢をたくさん胸に抱えて、4月の入学式を親子で楽しみにしております。
- ☆1年生より5時間授業があり、1時間机にすわっての授業がはじまります。楽しく子どもたちが目を輝かせてうけられるような授業をお願いいたします。
- ☆「安全で安心して学べる学校」その言葉通りを望んでいます。
- ☆せっかくの楽しい企画、参加者が思ったよりすくなかったのが残念！前もって知っていれば…

中学生版 言うから聞いて!

大会原稿を元に、
短くまとめて掲載
しています。

家族・友だち・異文化・社会などとの関わりの中で、気づいたこと、感じたこと、
自分をみつめ、真剣に考え、戸惑いながらも、自分らしく生きたい…そんな中学生の声をお届けします。

まよいながらも…

「私の家族と他の家族との違い」

第二中学校3年 堀田 好恵



自己PR

女2人で生活しています。いつもつまらないことでけんかして2人で泣くこともあります。でも、この家族に生まれてよかったと思います。



私の家は母子家庭です。父は私が4歳の頃に亡くなり、母は女手一つで私のことを育ててきてくれました。私と母は本当に仲が良く、明るく頑張りやな母は私の自慢です。けれども、仲がいいからこそ、何回もケンカを繰り返してきました。そんな私も今や受験を控えた中学3年生になりました。母は私にレベルの高い高校に行くことを強く望んでいます。2人暮らしたからこそ、1人で頑張ってきた母だからこそ私に楽をさせたいが為、レベルの高い高校を勧めているのを私もちゃんと理解しています。私はそんな母の気持ちにも応えたく、けれども、自分の意見(レベルの高い学校よりも、3年間有意義に過ごせる高校に行くこと)も通したく、ずっと迷っています。高校受験までまだ4ヶ月以上あります。これからも言い争うこともあるでしょう。でも、私と母ならきっとお互い理解し、後悔しない道へ進むことができると信じています。

「自分の意見に自信を持つとう」

はっきりと

第六中学校3年 杉岡 大

僕は今年の夏、ニュージーランドに行ってきました。そこでテレビや本でしか知らなかった光景を目の当たりにしたのです。向こうの学校では本当に生徒一人ひとりが自分の意見を持っているようで、授業中に先生から意見を求められた時には、誰でもすぐに答えていました。日本の中学校、少なくとも僕の周りとはすごい違いで驚きました。また、家庭生活ではこんな事がありました。僕とホストファミリーとの最後の夕食の時に、僕は今までのお礼にと味噌汁を作ってあげました。するとホストファミリーのお父さんは一口飲むなり、「まずい」と言って後には全く手をつけてくれませんでした。少しショックでした。でもこの時僕は、日本人みたいにならなければならないお世辞を並べるよりも、こんな風にストレートな物言いをする方がずっといいと思いました。日本でも皆が素直に自分の気持ちを伝えられるようになったらお互いの理解も深まり、もっと皆が仲良くなれるはずですよ。

自己PR

僕は2004年度の箕面市青少年海外派遣事業に参加しました。その時に、僕が感じたこと、気づいたことを論じました。皆さんに、少しでもそれが伝われば幸いです。



キーウイ

きめたこと

「心をふきこむ」

第四中学校1年 成清 由梨



自己PR

私は人に自慢できるような特技は持っていませんが安心して社会に出られるように頑張りたいと思っています。



私は将来、声優になりたいと思っています。

私は小さい頃からアニメが好きでした。いつも何気なく見ていたアニメでしたが、小学生の頃から声優を意識して見るようになりました。

アニメは、人が空を飛んだり、犬や猫が話したりと、不可能を可能にしてしまう世界です。その世界は、声優の演技一つで変わって行くと思います。声優の演技と声で、そのキャラクターの性格などを表現し、さらに存在感を私達は感じています。画面の中でしか存在できない彼らの心を見ている人に感じさせてしまう声優さん達は、高度な技術を持っているすばらしい方達だと思います。そういった点などから、声優は声を吹き込むだけでなく、心をふきこむ仕事であると思います。

私が声優に興味を持ったことも、「声優になりたい」と思ったことも、自分自身と向き合って決めた夢です。

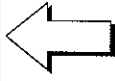
つぶやきに
「したえて」

保護者編

「理想の保護者」「理想の先生」「理想の先生」

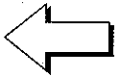
前号で、小学校先生編「つぶやき」(三つの事例)を掲載したところ、保護者の方からた
くさんの声が寄せられました。今回、それらを紹介する事で、保護者と先生との関係づくり
の参考となれば…

①お子さんが、ふざけて学校の窓カ
ラスを割った事情を保護者に電話
で伝えていたときのこと。本当に
我が子がやったのか執拗に聞いた
り、電話口で子どもに八つ当たり
する場面に出くわして、びっくり！



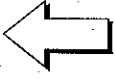
*先生は、保護者に何を求めて電話し
てきているのかな。
保護者としては、ガラスを割った状
況やどう指導しているのかが気にな
る。
*親である自分が先生に叱られている
気がする、子どもに当たりたい気
持ちになることもわかる。
*出来事だけ伝えても、日頃の学校で
の様子分からないと対話が難しい
のは、仕方がない気がします。
*先生も親もコミュニケーション力が
落ちていくと強ひ。

②夜自宅に「先生は、Aチームをひ
いさしている」と保護者から怒り
の電話。事情を聞いて、子どもが
書いた応援メモを、先生が書いた
ものと勘違いしたということがわ
かり、誤解は解けたのですが…



*自宅へ電話してくるくらいなら、も
う他の保護者の間では噂が持ちまき
りだと思つ。
*先生は、直接耳にしないとわからな
いから、この機会に思いきって電話
してきたのかも…
*今でも、子どもを人質にとられてい
るようで、先生には言いにくい保護
者が多いのです。
*保護者と先生のネットワークのきつ
かけにできればいいの。

③5年の学年末に保護者から「我
が子は中学受験するので、6年
のクラス替えでは、ストレスを
感じないようライバルのA君や、
ややこしい子とは一緒にしない
でほしい」と言われ…



*「ややこしいお子さん」と言われしめ
る状況があったのでしようね。
*子どもの楽しそうな様子は親もうれ
しいから、そつでないときも然り。
*個人的な要望に応えることは無理で
も、学校として、やれることを考え
ていくこと、問題を探ることは必要
それが不登校につながることもある
し。
*ちょっとゆっくり話を聞いてほしい。

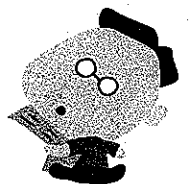


先生の「理想の保護者」って、どんな人？
文句を言わない人のこと？ また、保護者にと
っての「理想の先生」って、どんな人？
子どもにとっての、「理想の保護者、先生」は？
違う3視点でワークショップをしたら、いろいろ
見えてくるかも。

提案の声も届いています

なべちゃん

『人権教育基本方針』⑨



市民とのパートナーシップ

最近にはパートナーシップという言葉がはやりになってきています。人権教育でもそうですが、市民が主役の公益活動という場面では必ずといっていいほど使われる言葉となつています。箕面市の人権教育においても「市民とのパートナーシップ」は大変重要なものです。ではなぜ重要なのでしょうか。

最初にパートナーシップという言葉の意味から考えてみましょう。辞書を見ると「共同、協力、参加、提携」などと書いています。市民活動の文脈では「協働」と訳すことが多いですが、いずれにせよわかりにくいと思います。そもそもパートナーとは「仲間」のこと、これに「関係」を意味するシップという言葉がついたのがパートナーシップ。直訳すれば仲間関係のことです。これでも具体的に何を意味しているのかはまだわかりません。仲間関係とはいったいなんなのでしょう。

パートナーシップに似た言葉にフレンドシップがあります。「友情」という意味ですが、この言葉も直訳すれば「友だち関係」です。友だち関係という言葉よりも友情という言葉のほうがしつかりとした信頼関係をイメージしますね。シップという言葉が意味する「関係」とは、友情という言葉にイメージされるようなしつかりと信頼で結ばれた関係です。市民とのパートナーシップという表現には、仲間としてのしつかりとした信頼関係を市民との間でつくるという理念が込められています。

ところで、市民とパートナーシップをつくらうとしているのはいったい誰なのでしょう。箕面市の人権教育基本方針の場合、それは教育委員会です。教育行政という言い方もあります。近代国家はたいへん強い行政組織を持ち、公益的な活動のほとんどを行政が実施してきました。学校教育はその典型ですね。行政中心の活動では、市民社会の多

様な側面に十分に目を向けることができず、しばしば独りよがりな実効性に乏しい、活力を欠いたものになってしまっています。近年ではその弱点がますます強く出てくるようになってきました。その解決には、多様な市民が事業計画から実施や評価にいたる多様な側面に関わり、公益的な政策がより現実的かつ実効性と活力を併せ持つものにしていかなければなりません。そのために行政は市民をしつかりとパートナーにしなければなりません。

パートナーという言葉には恋人や配偶者という意味もあります。人生をとらめにつくる仲間という意味ですね。恋人や配偶者との愛を深めるにはルールが必要で、浮気はしない、パートナーとともに過ごす時間を必ずとる、家計は一緒に考えようとか、数えてみれば無数のルールでカップルの「パートナーシップ」はできています。どおりでときどき窮屈に感じるはずですが、窮屈であっても、ルール無用というわけにはいかないでしょう。

市民とのパートナーシップという場合も同じです。教育委員会と市民がしつかりとした仲間関係をつくるために互いにどのような努力をするのか、それを具体的な言葉にしていくことが必要です。「パートナーシップをつくり出す」とだけ言って具体的に何をするかいつまでも言わないようでは、相手に愛想を尽かされてしまいます。愛は言葉にする（＝契約を交わす）ことで深まる。このような西洋的な考え方に基づいているのがパートナーシップという考え方であり、「黙っていてもわかりあえる」という東洋的な考え方からすればいぶん違和感があるかもしれません。そのような文化の違いについて考えることも、人権や民主主義という契約概念を理解する手がかりとなるかもしれません。（鍋島祥郎なべちゃんより） 大阪市立大学人権問題研究センター助教

人権教育推進会議情報誌『はじける ころ』

発行 箕面市人権教育推進会議

箕面市教育委員会

教育企画課 TEL072-724-6762 FAX072-724-6010

e-mail:edukikaku@maple.city.minoh.lg.jp

平成17年（2005年）3月

人権教育推進会議委員

鍋島祥郎、守婦朋子、小関麻沙好、河野秀忠、丸岡康一、安東由紀子、中田恵理、今元杏、高桂子、岡本克己、植田真理子、中田和成、前田健、主原照昌、岡村公子、川上加津子、仲野公、森田雅彦、井上隆志、栗本忠夫、中野仁司、上田博、南橋正博、南悦司、小谷功、石田宇佐美、津田善寿、黒田正記、前田功、辻広志、中井正美、谷口あや子、藤野美代子、坂上潔司